

県立津久井湖城山公園におけるカヤネズミの記録

清水 海渡*・秋山 幸也

* 神奈川県立津久井湖城山公園

1 はじめに

カヤネズミ *Micromys minutus* は、齧歯目ネズミ科に属し、本州の宮城県および新潟県以南、四国、九州などに分布している（金子, 2005）。本種は主に、イネ科草本の葉を細かく裂いて数本の株にまたがるように球状の巣を作り、繁殖や休息の場所としている（白石, 1969）。また本種の生息場所はイネ科草本が繁茂する河川敷や休耕田などの草地である（白石, 1969）。神奈川県においては準絶滅危惧種とされ（広谷, 2006）、県内全域で生息は確認されているものの密度は低く、生息環境の悪化とともに減少が懸念されている。今回、神奈川県立津久井湖城山公園の敷地内でカヤネズミの生息を確認したのでここに報告する。

2 発見の状況

2012年10月10日に神奈川県立津久井湖城山公園（図1）の園路脇で、公園へ散歩に来ていた来園者が草の塊を発見した。連絡を受けた同公園職員である筆者の清水が、2日後の12日にカヤネズミの球巣であることを確認した。

3 発見地点

県立津久井湖城山公園は津久井湖に隣接し、標高 375m

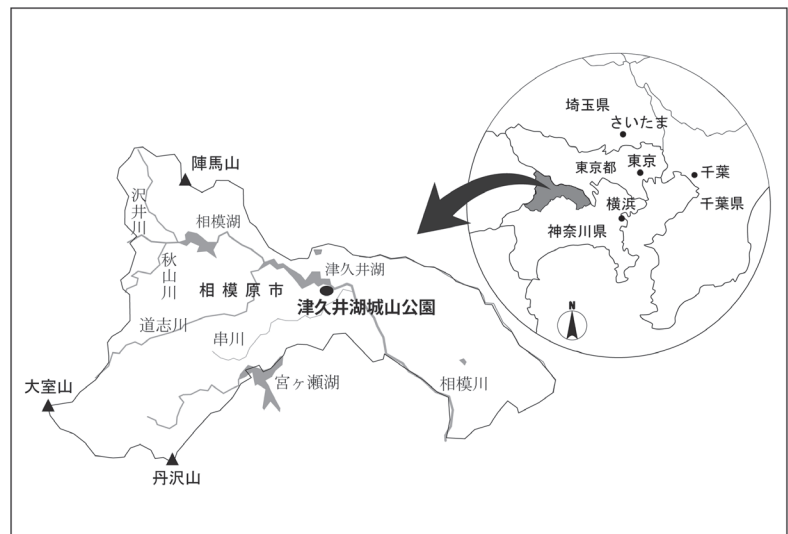


図1 発見場所の位置

の城山を中心に整備された 98ha の都市公園である。球巣の確認地点は公園の園路沿い、城山中腹の標高 170m にあるスギ植林地である。球巣は林床のアズマネザサに作られていた（図2）。発見地点から 50m ほどに隣接するススキの草地を踏査で確認したところ、ススキに作られた球巣1つを新たに発見した（図3）。

県立津久井湖城山公園では 2006 年に職員が草刈中に営巣球巣とカヤネズミの幼獣1頭を発見した。しかしその後、生息の痕跡は見つかっておらず、2009 年に実施された県内におけるカヤネズミの生息状況調査におい



図2 最初に発見された球巣（清水撮影）



図3 二番目に発見された球巣（清水撮影）

でも園内及び公園周辺では見つからなかった（青木ら，2009）。今回の発見は6年ぶりにカヤネズミの生息を園内で確認するとともに、公園周辺の地域でカヤネズミが生息する可能性を示唆している。

4 謝 辞

第一発見者で発見と同時に筆者へご連絡をいただいた末吉徳蔵氏には心より感謝の意を表します。

引用文献

- 青木 雄司・柳川美保子ほか，2009. 神奈川県におけるカヤネズミの分布．神奈川県自然史資料(31):95-101
- 金子之史，2005. カヤネズミ．財団法人自然環境研究センター編，日本の哺乳類 改訂版，p.134. 東海大学出版会，秦野．
- 白石 哲，1969. 九州産のカヤネズミの営巣習性．林業試験場研究報告，(220):1-10
- 広谷浩子，2006. 哺乳類．高桑正敏・勝山輝男・木場英久編，神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.225-232. 神奈川県立生命の星・地球博物館．